

テーマ：区分け、正則行列、逆行列

【区分け】 • 行列を幾つかの横線と幾つかの縦線で区切って小行列 (小さい行列) に分割することを
行列の区分け と言う。

- 特に (m, n) 行列 A の第 j 列ベクトルを \mathbf{a}_j と書いて

$$A = (\mathbf{a}_1 \cdots \mathbf{a}_n)$$

のように列ベクトルに分割することを 列ベクトル表示 と言う。また A の第 i 行ベクトルを \mathbf{u}_i と書いて

$$A = \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 \\ \vdots \\ \mathbf{u}_m \end{pmatrix}$$

のように行ベクトルに分割することを 行ベクトル表示 と言う。

- ◇ 区分けされた行列の和・差、スカラー倍、転置は次のようになる。

$$\begin{pmatrix} A_{11} & \cdots & A_{1s} \\ \vdots & & \vdots \\ A_{r1} & \cdots & A_{rs} \end{pmatrix} \pm \begin{pmatrix} B_{11} & \cdots & B_{1s} \\ \vdots & & \vdots \\ B_{r1} & \cdots & B_{rs} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} A_{11} \pm B_{11} & \cdots & A_{1s} \pm B_{1s} \\ \vdots & & \vdots \\ A_{r1} \pm B_{r1} & \cdots & A_{rs} \pm B_{rs} \end{pmatrix},$$

$$k \begin{pmatrix} A_{11} & \cdots & A_{1s} \\ \vdots & & \vdots \\ A_{r1} & \cdots & A_{rs} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} kA_{11} & \cdots & kA_{1s} \\ \vdots & & \vdots \\ kA_{r1} & \cdots & kA_{rs} \end{pmatrix}, \quad {}^t \begin{pmatrix} A_{11} & \cdots & A_{1s} \\ \vdots & & \vdots \\ A_{r1} & \cdots & A_{rs} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} {}^tA_{11} & \cdots & {}^tA_{r1} \\ \vdots & & \vdots \\ {}^tA_{1s} & \cdots & {}^tA_{rs} \end{pmatrix}$$

- ◇ (ℓ, m) 行列 A の列の分割の仕方と、 (m, n) 行列 B の行の分割の仕方が等しいときには、小行列を成分のように扱って積 AB が計算できる (左右の掛け方を間違えてはいけない。) :

$$\begin{pmatrix} A_{11} & \cdots & A_{1s} \\ \vdots & & \vdots \\ A_{r1} & \cdots & A_{rs} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} B_{11} & \cdots & B_{1t} \\ \vdots & & \vdots \\ B_{s1} & \cdots & B_{st} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} C_{11} & \cdots & C_{1t} \\ \vdots & & \vdots \\ C_{r1} & \cdots & C_{rt} \end{pmatrix}$$

ただし

$$C_{ij} := \sum_{k=1}^s A_{ik} B_{kj} = A_{i1} B_{1j} + \cdots + A_{is} B_{sj}$$

- ◇ 例えば、

$$\begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} \begin{pmatrix} P & Q \\ R & S \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} AP + BR & AQ + BS \\ CP + DR & CQ + DS \end{pmatrix},$$

$$A(\mathbf{b}_1 \cdots \mathbf{b}_n) = (A\mathbf{b}_1 \cdots A\mathbf{b}_n), \quad \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 \\ \vdots \\ \mathbf{u}_m \end{pmatrix} B = \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 B \\ \vdots \\ \mathbf{u}_m B \end{pmatrix}$$

【逆行列】 • A を n 次正方行列とする。

「 $AX = XA = E_n$ を満たす n 次正方行列 X が存在する」

とき A は正則である、または A は正則行列 (可逆行列) である と言う。 X を A の 逆行列 と呼び、 A^{-1} と表す。

- 正則行列 A と自然数 ℓ に対して $A^{-\ell} := (A^{-1})^{\ell}$ と定める。このとき、指数法則は負の整数も含めて成立する。

【定理】 A, B を n 次正則行列、 k を 0 でないスカラー、 ℓ を自然数とすると

$$(A^{-1})^{-1} = A, \quad (kA)^{-1} = \frac{1}{k}A^{-1}, \quad ({}^tA)^{-1} = {}^t(A^{-1}),$$

$$(A^\ell)^{-1} = (A^{-1})^\ell, \quad (AB)^{-1} = (B^{-1})(A^{-1})$$

【定理】 n 次行列 A のひとつの列ベクトルが零ベクトルであれば A は正則でない。また、ひとつの行ベクトルが零ベクトルであっても A は正則でない。

【29～31】 A, B, C, D, P, S を n 次正方行列、 $E = E_n, O = O_n, \ell$ を自然数とすると、次の式を示せ。

$$\text{【29】} \quad \begin{pmatrix} O & E \\ E & O \end{pmatrix}^2 = E_{2n}, \quad \begin{pmatrix} O & -E \\ E & O \end{pmatrix}^2 = -E_{2n}, \quad \begin{pmatrix} O & E \\ -E & E \end{pmatrix}^3 = -E_{2n}$$

$$\text{【30】} \quad \begin{pmatrix} E & B \\ O & E \end{pmatrix}^\ell = \begin{pmatrix} E & \ell B \\ O & E \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} E & O \\ C & E \end{pmatrix}^\ell = \begin{pmatrix} E & O \\ \ell C & E \end{pmatrix}$$

$$\text{【31】} \quad \begin{pmatrix} A & O \\ O & D \end{pmatrix} \begin{pmatrix} P & O \\ O & S \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} AP & O \\ O & DS \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} A & O \\ O & D \end{pmatrix}^\ell = \begin{pmatrix} A^\ell & O \\ O & D^\ell \end{pmatrix}$$

【32～34】 次の 3 次行列の逆行列を求めよ。

$$\text{【32】} \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \quad \text{【33】} \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 1 \\ 0 & 3 & 2 \end{pmatrix} \quad \text{【34】} \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

【35 (定理)】 m 次正方行列 P と n 次正方行列 S が共に正則行列であるとき、任意の (m, n) 行列 Q について $A = \begin{pmatrix} P & Q \\ O & S \end{pmatrix}$ と分けられた行列 A は正則行列であり、

$$A^{-1} = \begin{pmatrix} P^{-1} & -P^{-1}QS^{-1} \\ O & S^{-1} \end{pmatrix}$$

であることを示せ。

【36】 正則行列 A が対称行列ならば A^{-1} も対称行列であることを示せ。また正則行列 A が交代行列ならば A^{-1} も交代行列であることを示せ。

【37】 正方行列 A は、或る自然数 ℓ に対して $A^\ell = O$ となるとき べき零行列 であると言う。べき零行列は正則でないことを示せ。

【38】 正方行列 A がべき零行列ならば $B := E - A$ は正則であることを示せ。

(ヒント : $x^m - 1$ の因数分解)

【39】 O でない n 次行列 A は「 $AB = O$ を満たす n 次行列 B ($B \neq O$) が存在する」とき、零因子である と言う。零因子は正則でないことを示せ。